

リウマチ疾患・膠原病の専門診療を実践!

全国でも有数の膠原病専門の内科診療科として膠原病・リウマチ性疾患の診療および患者教育を行っています。膠原病は多臓器を障害する全身疾患であり、他科と積極的に連携を取って総合的な診療を行っています。新設のリウマチセンターとは特に緊密な連携をとっています。

診療体制

日本リウマチ学会認定指導医4人・専門医6人を中心に診療。研修医、指導医、教員による3人主治医体制で入院診療を行っています。病棟カンファレンス・回診を週2回開催、教授を含めた教員・指導医・研修医で入院患者さんの治療方針を決定します。



対象疾患

関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、混合性結合組織病、強皮症、皮膚筋炎／多発性筋炎、結節性多発動脈炎を含む血管炎症候群、シェーグレン症候群、抗リン脂質抗体症候群、成人スティル病、ベーチェット病、IgG4関連疾患など

診療、研究実績

一般的な診療についての実績

外来患者月1,900名(新患患者80名)、入院患者年300名。病床数30床。他病院にて治療方針に苦慮する膠原病や、診断のつかない不明熱患者を可能な限り受け入れています。

高度医療の取り組み・研究

①RNA免疫沈降法を用いた自己抗体測定による治療方針の決定

われわれが開発した特異的かつ感度の高い自己抗体検出法(RNA免疫沈降法)を用いて、膠原病の診断、病型分類を行い、治療方針決定や予後の推定に役立てています。全国他施設からの依頼も受け付けます。



②膠原病の難治性病態における集学的治療

ステロイド療法抵抗性の、膠原病の難治性病態に対し、シクロホスファミドなどの免疫抑制薬、二重濾過血漿交換、生物学的製剤などを駆使し、有効な成績をあげています。

③臨床介入試験による膠原病先進治療の開発

多施設共同研究により、関節リウマチにおける各種生物学的製剤治療の改良や、膠原病性難治性病態の治療法開発を行っています。

健やかな老後は、全身を診る老年内科から

複数臓器の疾患のある高齢者の生活機能保持のためには全人的な診療が必要です。認知症の早期診断、寝たきりの原因となる骨折・脳梗塞予防に骨粗鬆症や動脈硬化の診断治療。壮年期からの生活習慣病、感染症の診断治療も行っています。

診療体制

老年病・内科専門医が全般的な高齢者医療を行なっています。入院患者への多職種専門家によるチーム医療を実践しています。高齢者加齢総合外来、物忘れ外来、アンチエイジング外来、動脈硬化外来などがあります。



対象疾患

高血圧症、糖尿病、高脂血症、誤嚥性肺炎、老年症候群、アルツハイマー病その他の認知症、高齢者うつ病、骨粗鬆症、圧迫骨折、慢性閉塞性動脈硬化症、逆流性食道炎、めまい、低栄養症、歩行障害、意識消失発作、関節痛、腰痛、パーキンソン病など。

診療、研究実績

一般的な診療についての実績

①術中・術後の合併症を予防するための高齢者の術前機能評価、認知症のスクリーニングおよびCGAの実施依頼に対応。各種画像検査、血液検査を併用した骨粗鬆症や動脈硬化症、心理機能検査を併用した認知症の検査を行っています。

②高齢者の肺炎、腎盂腎炎など急性感染症、高齢者膠原病・不明熱、転倒、歩行障害、意識消失発作、めまいなどの診断・治療を行っています。

③理学療法部と連携した廃用症候の予防、嚥下訓練を行っています。

④入院・外来患者に対する包括的高齢者機能評価(CGA, Comprehensive Geriatric Assessment)を用いた認知機能、うつ、身体機能の評価を行っています。院内アンチエイジング教室も実施しています。

